

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
共通教育科目	117	2年	後期	看護学科	必修	実践と研究 Evidence-based Practice	15	1
担当教員								
越智 百枝	松村 美紀	豊田 ゆかり		中平 洋子		徳永 なみじ	奥田 美恵	
永井 さつき	濱 智子							
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
○	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
○	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
○	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
前半では科学的根拠に基づく実践を行うために、実践と研究の関係、研究の基礎的な知識、文献検索の方法、文献クリティークの方法について身につける。 後半は、10人程度の小グループ（臨床・看護は別々）単位で、関心を持ったテーマについて文献クリティークを行い、どのように実践に活用できるかについて考える力を身につける。								
到達目標（授業目標）								
1 科学的根拠に基づく実践を行うために、実践と研究の関係、研究の基礎的な知識について理解する。								
2 科学的根拠に基づく実践を行うために、文献検索や文献クリティークの方法を理解する								
3 既習の講義、演習、実習での体験を通して疑問に思ったこと、困ったことについて話し合い、グループでテーマを決めて文献検索する。								
4 テーマに関連する文献を選出し文献クリティークを行い、実践への活用について検討する。								
回								
授業計画（項目・内容与方法・担当者）								
1回	科学的根拠に基づく実践とは 「ガイダンス、科学的根拠に基づく実践の3要素、研究の定義、研究の科学的水準、研究課題と研究デザイン（方法）の関連」 越智							
2回	関心のあるテーマの明確化と文献検索のヒント 「グループに分かれ既習の講義、演習、実習での体験を通して疑問に思ったこと、困ったことについて話し合い、テーマを決定し、文献検索の準備をする。」 担当教員全員							

3回	文献検索の方法 「データベースの種類と特徴、主題検索とキーワード検索、検索式、(演習)各種データベースの探索方法と結果表示の読み取り、履歴・絞り込み検索の実際」 泉、越智									
4回	科学的根拠に基づく実践を行うための文献活用 「文献クリティークの方法」 越智									
5回	文献クリティークと実践への活用の検討(1) 「講義開始までに、グループで決定したテーマについて文献検索する。テーマに関連する文献(商業誌、学術雑誌)を3-4編選出する。選出した文献を、クリティークし実践への活用について検討する。」 担当教員全員									
6回	文献クリティークと実践への活用の検討(2) 担当教員全員									
7回	文献クリティークと実践への活用の検討(3) 担当教員全員									
8回	文献クリティークと実践への活用の検討(4) 担当教員全員									
9回										
10回										
11回										
12回										
13回										
14回										
15回										
16回										
17回										
18回										
19回										
20回										
21回										
22回										
23回										
24回										
25回										
26回										
27回										
28回										
29回										
30回										
成績評価方法及び基準										
講義時に提示する課題レポートの内容、及び文献クリティーク時のグループワークへの参加状況や成果として提出されたレポートにより評価する。トータル60点以上を合格とする。										
評価項目と配点										
1. 個人課題レポート1(10点)、2. 個人課題レポート2(10点)、3. グループで選定したテーマに応じた文献の選定(10点)、4. 選定した文献のエビデンスレベルの査定(10点)、5. クリティークポイントに沿った文献クリティーク(20点)、6. エビデンスに基づく実践への適用についての検討(20点)、7. グループ課題レポート(10点)、8. グループワークへの参加状況(10点)の1~8の項目について、それぞれ4段階で評価する(20点配点の項目は2倍する)。①十分できた10点 ②できた8点 ③ あまりできなかった6点 ④ できなかった4点とする。										
教科書	牧本清子、山川みやえ：よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版、日本看護協会出版会									
参考図書等	水島昇：科学を育む査読の技法、羊土社									
授業時間外の学習について(授業準備のための指示)										
授業時間外に自己学習として、課題レポートや文献クリティークの個人ワークなどを課すため、毎回1時間程度の学習時間の確保が必要である。										
関連科目										
前科目	115	初学者ゼミ	116	基礎ゼミ						
後科目		各領域別実習	249	総合実習	241	看護アセスメントⅡ	242	看護アセスメントⅢ	248	看護研究
実務家教員										
保健師(行政機関)	越智 百枝	豊田 ゆかり	中平 洋子	奥田 美恵						

看護師（医療機関）	徳永 なみじ	永井 さつき				
臨床検査技師（医療機関）	瀨 智子					
備考						